



地域ゆかりの武将
あいこうさぶろうすえたか
愛甲三郎季隆

鎌倉幕府の事績を記した歴史書「吾妻鏡」に出てくる武将。源頼朝に仕え、鶴岡八幡宮での流鏑馬や、新年行事である弓始で射手を務めるなど、弓の名手として名をはせた。1213年の和田合戦で北条義時を攻め込む際に討ち死にし、この日は没後800年の節目に当たる。現在も愛甲に館の跡が残る。

歴史で広がる地域の輪



2カ月以上に及んだ制作の最終段階で、笑顔で作業をする東名中美術部の部員たち。大画は現在、愛甲公民館のロビーに掲示されている



部員たちは、地域の住民との触れ合いも深めた

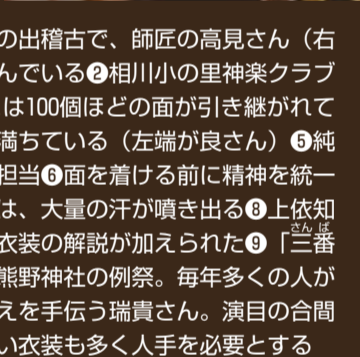
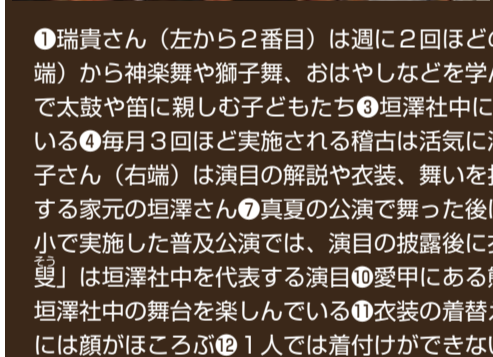
「影」 を付けて立体的にしようよ。「服の色は淡くした方がいいかな」。放課後の美術室で、中学生たちが大きなキャンバスに絵筆を走らせています。描いているのは、地元ゆかりのある武将・愛甲三郎季隆。縦3.5メートル横2.5メートルの大画に、東名中学校美術部の部員たちが挑戦しました。大画の制作を決意したのは、ことし6月。「地域の人にもっと愛甲三郎季隆を知ってもらいたい」という考えからでした。部員たちは、歴史の本や錦絵などで愛甲三郎季隆を研究。7月に下書きに着手し、2カ月かけて制作しました。「絵のバランスやペンキでの塗装に苦労しましたが、力を合わせて描き上げました」と、部員たちは充実した表情を見せます。完成した大画は9月、愛甲公民館で開催された歴史講座でお披露目。地域の方たちが、中学生らしさがあるほほほ笑ましい作品に親しみました。

地域に愛着を持ってもらおうと、公民館では愛甲三郎季隆にちなんだ事業を展開。歴史散策会やあんどん作り教室のほか、地域の子どもたちによる公民館の壁画制作も進めています。愛甲公民館長の石井克彦さん(70)は「事業を通して盛り上げに感じている。愛甲三郎季隆をきっかけに地域が一つになれば」と期待を寄せます。

かつて鎌倉幕府に貢献し、愛甲地区で活躍した地元の英雄。800年の時を越え、今なお地域の輪を広げています。
愛甲公民館 ☎ 247局 1434

目次	2・3面 新たな歴史を築く 100年にわたり里神楽を伝承してきた垣澤社中。伝統をつなぐと奮闘する神楽師たちの思いに迫りました。	4～7面 特集 厚木北高校の挑戦 スポーツを通じた教育に力を入れる県立厚木北高校。学校改革と生徒たちの日々の活動を追いました。	8・9面 輝く手仕事 手彫りではんこを作り続ける職人の姿から、衰退しつつある伝統的な手仕事の魅力を紹介します。	10・11面 タウンガイド 催し・講座・子育て・募集・お知らせなど、暮らしに役立つ便利な情報が満載。
----	---	---	---	--

こちらから



●相模人形芝居特別公演
 《日時》11月10日 13時30分～
 《出演》義太夫三味線、相模人形芝居 林座・長谷座、あつぎひがし座
●郷土芸能発表会
 《日時》11月17日 13時30分～
 《出演》相模里神楽垣澤社中、玉川中学校太鼓演奏、七沢浅間太鼓保存会、法雲寺酒井双鼓演奏、伊勢十二座太神楽獅子舞保存会、子易神社・若宮八幡神社御輿保存会太鼓連、愛甲・長谷ささら踊り盆唄保存会、市古式消防保存会
 いずれも文化会館。無料。◎当日直接会場へ。
 ◎文化財保護課 ☎225局2509

来を模索する瑞貴さん。地元の人々に見てもらえる機会を増やすとともに、見る人が親しみやすいよう、獅子舞やおとぎ話の演目を加えることなども考えている。勉さんも家元としてすべきことを心に刻む。後継者の問題にしっかりと取り組み、家族や仲間と力を合わせて一歩一歩進んでいきたい。父先祖が受け継いできた伝統と志。父から子へつなぐ誇りと希望。里神楽に懸ける思いを分かち合い、垣澤家は歩み続ける。新たな歴史の幕が上がる。
 ◎文化財保護課 ☎225局2509



新たな歴史を築く
 ふるさとの 芸能
 さがみさとかくらかきざわしやちゅう
相模里神楽垣澤社中
 おはやしの軽快な響きと華やかな舞いが、見る者を無言劇の世界に引き込む。神を樂しませ自然の恵みを願う神事であり、かつては庶民の娯楽でもあった里神楽。社中の創設から100年、時代のうねりの中で廃絶の危機を乗り越え伝統をつないできた。ひた向きな営みが伝える郷土の芸能は今、新たな挑戦を始めている。

夕闇に溶け込んだ厚木神社の神楽殿。笛と太鼓の拍子に合わせ、鮮やかないでたちの神楽師が舞う。時に激しく、時にしなやかな動きが面の表情を豊かに変える。露店が軒を連ねる境内には幻想的な空間が浮かび、例大祭を樂しむ人々が引き寄せられるように人垣をつくる。
 里神楽は、「古事記」や「日本書紀」といった神話などを身ぶり手ぶりで演じる民俗芸能だ。演者は面と装束を身に着け、神社の祭礼などで舞う。厚木では、江戸時代から愛甲神楽として盛んに演じられてきた。現在その伝統を継ぐのは、昨年創設100周年を迎えた相模里神楽垣澤社中。3代目家元・垣澤勉さん(67・酒井)を中心に、13人の座員が郷土の芸能を今に伝えている。

● 社中を照らす希望の光
 家元一家である垣澤家では、勉さんのほか、妻の純子さん(58)、長女の瑞貴さん(30)、長男の良さん(27)と、家族全員が社中の活動を担っている。教師や農家などさまざまな経歴を持つ他のメンバーが、豊富な経験で社中をより立てる。公演は市内外で年間15回ほど。神社や芸能発表会、学校での普及公演などを主な舞台としている。ことし2月には、100周年を記念した初の単独公演を成功させた。
 一方、社中を取り巻く環境は厳しい。人々の神への信仰心が薄らぐにつれ、公演数は大きく減った。座員は70歳前後が多くを占め、若い後継者や新たな加入者は少ない。
 そんな中、瑞貴さんと良さんは社中の希望の光だ。2人は小学生のころから舞台を踏み「先祖がつないできた伝統を絶やしたくない」と口をそろえる。特に瑞貴さんは、都内の「江戸の里神楽」で出稽古に励むなど、里神楽に打ち込む日々を送る。

● 発展に懸ける思い
 里神楽の魅力は「歌舞伎や人形芝居など、さまざまな伝統芸能の要素が詰まったエンターテインメント」と表現する瑞貴さん。一人前の神楽師を目指す「江戸の里神楽」の師匠に師事して1年半がたつ。師匠の高見進さん(66)は「彼女の情熱は本物であり宝物。多くのことを吸収して、相模里神楽をさらに発展させてほしい」と期待を寄せる。「江戸の里神楽」は能の影響が強く、きれいで洗練された所作を特長とする。瑞貴さんは、舞いやおはやしの技術、着付けの方法などを学び、相模里神楽に積極的に取り入れようとしている。「変えてはいけないもの、変えるべきものを見極めて新風を吹き込みたい」と意欲を見せる。
 一方で勉さんは、舞いの大きさや激しさといった相模流の特長を失うことは反対する。瑞貴さんの出稽古の成果に期待しながらも「受け継いできた伝統を守りつつ発展させてほしい」と注文を付ける。2人の意見の食い違いは珍しくない。社中の方向性や演目の約束事などを日頃から議論し、時にぶつかる。その様子を見守ってきた最古参の座員、相田アヤ子さん(75・酒井)は意見の衝突は、本気で相模里神楽を発展させようとしているからこそ。普段はとてつもない家族「とほほは笑む」
● 家族で支え合う
 勉さんと瑞貴さん、良さんは仕事を持つ傍ら、時間をやりくりして稽古に励む。最盛期に比べ公演数が3分の1に減っている今、里神楽で生計は維持できないからだ。家族全員で協力し合う垣澤家。瑞貴さんは、里神楽が家族を一つにしてくれていると感じている。それは「父が何よりもまず家族を大切にしてくれる」から。純子さんと良さんも同じ思いを抱く。
 芸能事は人々の関心を失えば消滅してしまう。廃絶の危機を家族や親戚の支えで乗り越えてきた勉さんは、その厳しさを知っている。平たんではない道のりを歩む子に向けるまなざしは優しい。「生活や仕事が犠牲になることもあると思うが、里神楽を継承する喜びを感じて、家元の家に生まれたことを良かったと思える人生にしてほしい」
● 新たな歴史が始まる
 「指先までしっかり演じて」「そこで見えを切つて」。相川公民館の一室に座員を指導する家元の声が響く。稽古は毎回熱気にあふれている。瑞貴さんも所作の統一などを積極的に提案する。「里神楽は民俗芸能。地域に寄り添った活動をしていくべき」と、社中の未来を模索する瑞貴さん。地元の人々に見てもらえる機会を増やすとともに、見る人が親しみやすいよう、獅子舞やおとぎ話の演目を加えることなども考えている。勉さんも家元としてすべきことを心に刻む。後継者の問題にしっかりと取り組み、家族や仲間と力を合わせて一歩一歩進んでいきたい。父先祖が受け継いできた伝統と志。父から子へつなぐ誇りと希望。里神楽に懸ける思いを分かち合い、垣澤家は歩み続ける。新たな歴史の幕が上がる。
 ◎文化財保護課 ☎225局2509

相模里神楽の歩み
 (敬称略)
江戸時代中期
 江戸で発祥した里神楽が現在の形になり、仮面劇として発展。その後、厚木に伝わり、愛甲の萩原家で愛甲神楽として演じられる。
1912(明治45)年
 萩原家と姻戚関係にあった垣澤鹿造が垣澤社中を立ち上げる。その後、萩原家による愛甲神楽の伝承は途絶える。
1947(昭和22)年
 鹿造の四男、常蔵が2代目家元を継ぎ、相模流の流派を伝える。
1971(昭和46)年
 市無形民俗文化財の指定を受ける。このころは座員が4・5人に減り、活動困難な状態に陥る。
1987(昭和62)年
 常蔵の四男、勉が3代目家元を継ぐ。
2012(平成24)年
 社中創設100周年を迎え、翌2013年に記念公演を開催する。
 公演後に記念撮影する垣澤一家

垣澤社中の奮闘を映像で紹介
「伝統と誇りをつなぐ」
 相模里神楽垣澤社中を特集した市広報番組「あつぎ元氣Wave」をケーブルテレビ(11ch)で放送します。
【放送日】11月1日～15日
 放送後に市ホームページでも動画配信します。
 あつぎ元氣Wave 検索
 ※詳細は10面の番組ガイドをご覧ください



文武両道を目指す北校。運動部は現在16あり「北校の部活動に入りたい」という思いで市外からも多くの生徒が通っている

特集 厚木北高校の挑戦

スポーツが育む若者たちの心

ことし創立35周年を迎える県立厚木北高校。スポーツ教育に力を入れ、科学的根拠に基づいた教育課程や活発な部活動などを通じて生徒たちの成長を支えている学校だ。個性や自主性を尊重した活動で、これまで幾多のプロスポーツ選手を輩出。その背景には規律正しい学校生活と、生徒と教員との信頼関係があった。かつて教員たちが成し遂げた学校改革と、スポーツに今をさざげている生徒たちに迫った。

◎厚木北高校 ☎241局8001



「おはようございます」。下野野にある厚木北高校(以下、北高)に足を踏み入れると、すれ違う生徒から爽やかな声がかかってくる。朝早くから部活動に打ち込むたくさんの生徒たち。専門コース「スポーツ科学コース(SSC)」を設けるなど、北高は勉強、運動の両

学校一体で成し遂げた改革

スポーツに力を入れるまでの北高は、決して活気に満ちた学校ではなかった。近隣からの苦情も多く「廃校にしてほしい」という声まで上がるなど、教員たちの悩みは尽きなかった。

「何とかして状況を打開しなくては。平成6年に校長として着任した神倉正さん(73)は使命感に駆られていた。「生徒が誇りを持てるような学校にしたい。今こそ、そのための方策を考えよう」と、教員たちに訴えた。

教員たちは皆、その思いに応えた。すぐに「学校づくり委員会」が設けられ、学校改革の方向性が模索された。ちょうどその頃、県の教育委員会も「特色ある学校づくり」を推進していた。北高は専門コースの設置を目指し、さまざまな学校の視察や調査を重ねた。

学校に活気と規律を

コースの具体的な中身や在り方を検討した結果、設置する専門コースは科学的にスポーツを学ぶSSCに決まった。スポーツが学校に活気と規律をも



当時を振り返る神倉さん

面からスポーツの充実に努めている。SSCを設置したのは今から17年前。それまでの学校の運営方針を大きく変え、スポーツを通じた生徒の健全育成を目指した。それは、学校を良くしたいという教員たちの思いから始まった「学校改革」だった。

たらずと考えたからだった。

それから1年、学校は準備に追われた。教員たちは担当する科目の垣根を超え、互いに知恵を出し合いながらカリキュラムを作成。スポーツに秀でた生徒に入学してもらうために、市内の中学校や道場などを精力的に回った。コンピュータ室の設置やグラウンドの改修など、施設の充実にも努めた。

やるべきことは多かったが、新たな学校づくりに取り組み教員たちの熱意はそれ以上だった。市内中学やPTA、同窓会の支援も受け、平成8年にSSCの一期生(40人)が誕生した。

スポーツで得た自信と誇り

その後も学校は、スポーツの指導力が高い教員や特殊な運動機器の確保に力を注いだ。近隣の神奈川工科大学と連携した研究も取り入れ、学校独自の魅力を高めた。自校による学校評価を実施し、新たな課題には教員一丸となって立ち向かった。

スポーツがもたらした礼儀やあいさ

スポーツの力を教育に生かす

市内には現在、県立・私立を合わせ九つの高校がある。各校とも特色ある学校づくりに努め、未来を担う若者たちの成長を支えている。

その中で専門コースを設置し、スポーツを特色として打ち出す北高。「スポーツ活動の推進」「学力の向上」「豊かな人間性の育成」を教育の柱に据え、文武両道の実践を目指している。

日常の疑問を科学する

スポーツ教育の中心を担うのは、SSCと部活動だ。SSCには現在、全学年合わせて116人の生徒が在籍。運動能力の向上やスポーツ理論の学習といった独自の科目を設け、部活動とも連携した効果的なカリキュラムを組んでいる。中でも個性があるのが「スポーツ科学研究」という科目。動作解析装置や脳波測定器など、特殊な機材を使いながらスポーツに関連した研究をする。「高大連携事業」の一環として、神奈川県立神奈川大学の協力も得ている。

2年次に研究の基礎を学び、3年次には卒業研究として論文の作成や発表を実施する。テーマの設定から発表まで、研究は一貫して生徒主体で進められる。毎年12月の発表会は、他校の学校関係者なども注目する学校行事だ。物理の教員として10年以上SSCに携わっている桑田芳明さん(62)は「緊張感や責任感を持って研究を進めるこ

熱気に満ちた部活動

1日の授業を終えると、生徒たちが校舎から駆け出してくる。グラウンドや体育館などには、練習に打ち込む生徒の掛け声が響く。放課後の北高は、いつもスポーツの熱気に満ちている。

学校方針を変えてから、運動部は目覚ましい躍進を遂げた。さまざまな競技で県大会上位の常連となり、昨年は柔道部やゴルフ部、弓道部などが全国、関東大会に出場した。北高出身のプロスポーツ選手も多く、ゴルフの斉藤愛璃さん、吉田弓美子さんが第一線で活躍している。

顧問らは、礼儀や自主性を重視した指導に努めている。技術だけでなく豊かな人間性を育てることで、結果を生んでいる。生徒たちは自主的に取り組むことで、過酷な練習や顧問からの厳しい言葉にも前向きな姿勢を失わない。日が沈んでも、校内には生徒たちの大きな声が響いている。研究に部活動と、充実した学校生活を送っている彼らに話を聞いた。(次ページに続く)

「スポーツノススメ」



厚木北高校校長 小野文生さん(55)

「素直で明るい生徒が多いこと」。それが本校の特長です。SSCの生徒は全校の一部ですが、スポーツの効果は全校生徒に浸透しています。例えば、あいさつやルールを守ること。「あいさつが素晴らしい」と、お手紙を頂くこともありますし、全校集会での私語もほとんどありません。

スポーツに力を入れています。教育の基本は授業です。一人の人として生きていくために、基本的な生活規範を身に付けてもらうことが最大の目的です。

地元の小中学校でスポーツ教室を開催したり、交通安全運動に参加したりと、地域との交流も積極的に図っています。東日本大震災の時には生徒が主体となって支援物資を募り、被災地に寄付しました。

将来、全員がスポーツに関連した職業に就けるわけではありません。生徒たちには、学校生活で得た「スポーツは楽しい」という心を生涯を通じて持ち続けてほしいと思います。スポーツを通じた仲間づくりも大切にしていってほしいですね。



現在北高には823人の生徒が通い、勉強やスポーツに励んでいる



特集 厚木北高校の挑戦

部活

生徒たちは純粹な心でスポーツに向き合っている。



①実験データをとる鈴木さん(右) ②班のメンバーと発表内容話し合う千葉さん(右) ③卒業研究で実施される動作解析実験④動作をコンピューターで分析⑤神奈川工科大学で実験器具の体験をする2年生の生徒たち

成長を後押しする部活動

「スポーツを科学する」SSCの取り組み

部活動で充実感を



ゴルフ部顧問 榎山隆裕さん(55)

「部活動を通じて充実した高校生活を送ってほしい」というのが私の願いです。充実感は一生涯取り組まなければ得られません。部活動には皆とても積極的で、練習の段取りなどは生徒から提案されることもあります。私が教えることと、生徒が自主的に行動することのバランスが取れているのが、非常に良いことだと感じています。スポーツを生涯楽しんでほしいと思っているので、体を大切にしながら技術を伸ばそうと努めています。ストレッチに一生懸命取り組む生徒たちを見ていて、思いが伝わっているように感じられます。部員たちは、ゴルフの技術の上達と同時に人として大きく成長しています。コーチやゴルフ場の皆さんなど、たくさんの人と関わることで人の話をよく聞き、自ら考えて行動する力を得ています。

部下がの体育館裏。練習用ネットに向かい、黙々とゴルフクラブを振り続ける生徒の姿があった。一般コース3年の石倉佳那子さん。プロゴルフファーを目指す部員の一人だ。石倉さんは1年生の時から全国大会に出場してきた。高校最後の大会は終わったが、今も毎日の練習は欠かさない。現在は目前に迫ったプロテストに向け、飛距離アップや細かいテクニックの向上などに力を注いでいる。

強さの源は明るさ

北高ゴルフ部は、公立校でありながら全国大会の常連。平成9年に部が誕生し、翌年から16年連続で全国への切符を手に入れている。これまで6人の卒業生がプロゴルフファーになっており、石倉さんらその背中を追っている。基本的には学年や男女が問われる競技だが、部員たちは学年や男女にかかわらず仲が良い。石倉さんが強さの理由を「部の明るさ」と断言するように、部室の周りにはいつも笑顔があふれている。高校で初めて経験する団体戦や

特色ある活動内容

合宿が、部員たちの絆を深めている。

北高が実践するスポーツを通じた教育は、生徒たちに多くの教育効果をもたらしている。ここでは、部活動や研究に全力で取り組む北高生の活動を紹介します。日頃の活動から、スポーツ教育の魅力を探る。



二人一組でストレッチに励む部員たち

仲間たちは精神的な支え

顧問の榎山先生の指導の下、ストレッチに重点を置いたトレーニングにも多くの時間を費やす。二人一組になり、約1時間掛けて全身を伸ばす。自分の体と向き合いながら、芝の上で実践的な練習を重ねる部員たち。目先の結果だけではなく、長く競技を楽しむための努力を欠かさない。

ゴルフのような個人種目の上達を目指す人々の中には、部活動には入らず個人レッスンなどに特化する人も多い。それでも高校で部活動に励む理由を、石倉さんは「精神的な支え」と話す。「調子が思うように上がらず落ち込むこともありですが、みんなに相談したり励まし合ったりすることで前向きに頑張れるんです」

「将来は攻めのゴルフをして、多くの人から目標とされる選手になりたい」と意気込む石倉さん。7年後のオリンピックも見据え、練習に励んでいる。特色ある練習環境と熱心な指導者、何でも分かち合える仲間たちの中で、部員たちは日々成長を続けている。彼らがひた向きに取り組む部活動の中に、掛け替えのない「教育」があった。



学校には動作解析装置など他校にない機材がそろ

現在、SSC3年の鈴木大地さんと千葉涼太さん。共に野球部に3年間在籍し、野球漬けの毎日を送ってきたチームメイトだ。2人は野球を通じ「大事な場面で緊張してしまったり、試合で実力が出せなかったり」という経験を学んできた。

データを蓄積して分析

鈴木さんらの班のメンバー7人は、テーマに関する知識を得るためスポーツ科学関連の書籍を読みあさった。その結果「経験の不足や過度の緊張、競技に対する不安といった要素が弱いメンタルを生む」という仮説を立てた。仮説を実証するためにどのような実験をすればいいのか、議論を重ねた。実験は、野球部の後輩30人を被験者

「達成感」が得られる教育



神奈川工科大学教授 高橋勝美さん(52)

北高とは15年以上にわたって交流を続けています。現在はSSCの2・3年生などを対象に、両校を行き来して研究の指導に当たっています。北高の卒業研究は、発表まで長い時間をかけて実施されています。そのため、研究の成果だけでなく感動や達成感など良い教育効果を生んでいると思います。教員の皆さんの指導の素晴らしさも感じています。一貫して生徒に向き合った指導は、生徒からの信頼関係につながっているのではないのでしょうか。いろいろな人と関わり、決して一人ではできない研究にこころを注ぎ、仲間と協力して研究に取り組むことは、高校生の大きな成長の一歩だと思います。2年生には研究への興味を高める指導を実施



2年生には研究への興味を高める指導を実施

後輩のためにも

現在各班では、最終的なまとめや発表の準備・練習に励んでいる。鈴木さんも「3年間の集大成を見せたい」「分かります、後輩が役立てられるような発表にしよう」と意気込む。

「研究から学んだこと」
「今まであいつや掃除でブレイが良くなると言われてもびんと来なかった」と話す千葉さん。だが、メンタルに関する知識を身に付け考えが変わった。「掃除で気持ちの整理ができるなど、規則正しい日常生活や規律がブレイに結び付くことを知りました」鈴木さんは班長としてメンバーをまとめることに力を尽くす。「積極的な方ではなかったんですが、みんなの意見を一つの方向に集約できて達成感を味わいました。今後よりリーダーシップを養っていきなさい」と笑顔で話す。

「本当に先生に恵まれました。発表会を目前に控え、そう話す千葉さん。部活や研究に自主的に取り組んできたが「落ち込んだときに気持ちを高めてくれたり研究の段取りを取ってくれた」と、教員への感謝を忘れられない。「地元の中学の野球部に貢献したい」「人のためになる仕事に就きたい」と将来について話す2人。彼らは北高で、心と体を大きく成長させている。

技能功労者などを表彰 優れた技能をたたえて

市では、優れた技能を持ち活躍している皆さんを表彰しています。ことし受賞が決まった方を紹介します。

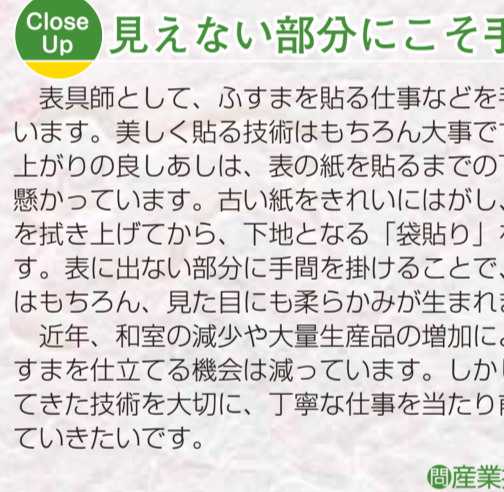
- 【敬称略】
- 市の表彰
 - 《技能功労者》あん摩マッサージ指圧師=田所泉(70・下荻野)、理容師=石川弘康(70・飯山)、大工職=望月治(60・下川入)
 - 《優秀技能者》石工職=石井孝夫(54・愛甲西)・北原弘康(41・七沢)、表具師=吉田典男(52・高尾)、菓子製造工職=井上哲二(54・上荻野)、あん摩マッサージ指圧師=田所頼政(41・下荻野)、内装工事士=畠中正人(46・長谷)・広滝圭司(41・岡田)
 - 《優秀青年技能者》石工職=加藤純(30・七沢)
 - 市技能職団体連絡協議会の表彰
 - 《優秀技能者》屋根職=佐川隆彦(53・平塚市)、大工職=成瀬信夫(50・大磯町)
 - 《優良中堅技能者》畳職=八木誠(39・飯山)、石工職=鍛代哲也(36・下荻野)
 - 《優良青年技能者》畳職=佐藤裕隆(33・岡田)



早さよりも、きれいに丁寧に

市内の工務店で大工として働き30年になります。仕事をする上で大切にしてきたのは「早さよりも、きれいに丁寧に」という心構えです。自分が納得のいく仕事をして、お客さんが喜んでくれた時は本当にうれしい気持ちになります。良い仕事は信頼につながります。

大手ハウスメーカーの店頭で、新築を手掛けることは少なくなりました。今の大工はリフォームなど多様な仕事に対応できる技術が求められています。どんな仕事であっても、これまで通りの心構えで良い仕事をしていきたいです。



見えない部分にこそ手を掛ける

表具師として、ふすまを貼る仕事などを手掛けています。美しく貼る技術はもちろん大事ですが、仕上がりの良しあしは、表の紙を貼るまでの下準備に懸かっています。古い紙をきれいにはがし、骨組みを拭き上げてから、下地となる「袋貼り」を施します。表に出ない部分に手間を掛けることで、耐久性はもちろん、見た目にも柔らかみが生れます。

近年、和室の減少や大量生産品の増加により、ふすまを仕立てる機会は減っています。しかし、培ってきた技術を大切に、丁寧な仕事を当たり前前に続けていきたいです。

踏み出そう！就職への第一歩

◆第2回厚木市合同就職面接会

《日時》11月29日 12時30分～16時30分

《会場》厚木商工会議所

《内容》市内や近隣企業による就職面接会(参加企業は11月11日から市ホームページや産業振興課で公開予定)

《対象》市内や周辺地域在住の39歳までの求職者(学生は除く)

《持ち物》面接希望企業数分の履歴書 当日直接会場へ

◆厚木市合同就職面接会直前セミナー

《日時》11月22日 9時30分～16時30分 《会場》勤労福祉センター

《内容》業界研究、応募先の探し方、書類作成・面接のポイントなどを学ぶ

《対象》39歳までの方30人(学生は除く)

☎電話またはファクスで11月20日までに県若年者就職支援プログラム事業事務局 ☎045・316局5831・☎045・316局5832へ。抽選。

◎産業振興課 ☎225局2585

**「心を込めて彫る大切さを
受け継いでいます」**

神奈川県厚木市立高等職業訓練校
校長 武井良雄さん

2年間、見文堂に通い修業させていただきました。家族のように受け入れてくれて、本当に感謝しています。小宮さんは温厚な方で、怒られた記憶は一切ありません。一緒に仕事をする中で、心を込めて彫る大切さを学びました。

注文してくれたお客さんのことを思い、気持ちで作れるところが手仕事の良さだと思っています。現在、訓練校の校長として印章彫刻士を志す若者の育成に当たっています。技術はもちろんですが、手間をしっかり掛けて、気持ちを込める大切さを伝えています。

◎産業振興課 ☎225局2585

ひとまち元気

産学連携で地域経済の活性化を目指す組織「あつぎものづくりブランドプロジェクト(A-T-S-U-MO)」が、等身大の二足歩行ロボットの試作機を発表しました。

ロボットはまだ骨組み状態ですが、来年4月までに外装を施して話もできるように改良するそうです。「あゆコロちゃん」をモチーフに、市内の小学生から公募するということで、完成が楽しみです。

「さがみロボット産業特区」に指定されている厚木市には、ほかにロボットによる地域経済の活性化を目指すグループがあります。中小企業の経営者でつくる「チームアトム」です。チームアトムは神奈川県と協働で、介護ロボットの開発を進めています。特区の規制緩和については県が調整しているところですが、ロボット産業を市内に集積させるチャンスであるのは間違いありません。補助金や企業誘致などの積極的な施策を進め、「ロボット厚木」と言われるような新たなものづくり産業の発展を目指します。

◎市長 小林 常良

第32回 あつぎ技能祭

市内で活躍する技能職の皆さんが集います。匠の技を間近で見られるチャンスです。ぜひ会場にお越しください。

体験コーナーも充実

《日時》11月9・10日(あつぎ国際大道芸と同日開催) 10時30分～16時

《会場》厚木中央公園

《内容》包丁研ぎやまな板削りなどの技能実演や、工作教室などの技能体験、技能クイズほか

◎産業振興課 ☎225局2585

TAKUMI
あつぎの匠

伝統を守り
新技術を支える
ものづくりの力

ものづくりの礎を築いてきた職人の皆さんを紹介しています。ぜひご覧ください。

冊子は、図書館や公民館などでご覧いただけます。

あつぎの匠 検索



「手間仕事」——面倒な仕事のいろ。

ものづくりの機械化、効率化が進む現代。私たちは生活に必要な品物を、安く手軽に手に入れられるようになってきている。その陰で、ものづくりの礎を築いてきた伝統的な手仕事は非効率とされ、衰退の道をたどりつつある。そんな中、小宮嘉一郎さんは、かたくなに手彫りの印章を作り続ける。一切の手間を惜しまないその姿には、職人としての誇りがあふれている。

能士の数も減っている。このままでは手彫りの伝統が廃れてしまう。そう危感を募らせるのは、小宮さんのただ一人の弟子、武井良雄さん(59・小田原市)。小田原市ではほんこの店を営む傍ら、神奈川県厚木市立高等職業訓練校(横浜市の)の校長として、後進の育成に力を注いでいる。小宮さんも、訓練校で30年ほど講師を務め、多くの生徒を全国各地に送り出してきた。印章彫刻士を育てる日本では唯一の訓練校だが、現在の生徒数は6人。業界の厳しい現状がうかがえる。

印章の製造は、昭和50年頃から機械化による大量生産が主流となってきた。安価な品が出回るようになると、多くの客は割高な手彫りの印章から離れた。いった小宮さんの店も例外ではなく、機械化のあおりを受け年々仕事は減っている。しかし、小宮さんは「手彫りの印章は、注文してくれたお客さんに向けて彫る唯一無二の品。値段ではなく、物の良さを分かってくれる人に届けたい」と、かたくなに自らの手で彫り続けている。

「それじゃあ仕上げに入るのか。小宮さんは仕上げの刀を手に、再び印面に視線を落とした。荒彫りで浮かび上がった文字の縁を刀でなぞり、目に見えないほどの微細な突起を丁寧にそぎ落としていく。文字に血を通わせるように、試し押しをしては細かな修正を繰り返していった。

最後の修正を終えると、小宮さんは仕上がった印章に朱肉を付け、真っ白な和紙に力強く押し込んだ。手彫りならでは文字だね。卓上ライトに照らされた朱色の印影には、彫り上げた職人の姿を写し出したかのような、強くも穏やかな輝きがあった。



【プロフィール】印章彫刻士として60年ほどの経験を持つ。一級印章彫刻技能士、神奈川県卓越技能者表彰、大河ドラマ「龍馬伝」篆刻指導など。



①主な印材は象牙、水牛の角、ツゲ②一番落着くという作業机③字入れ前に施す字割り④筆を使って字入れ⑤砥草をかけ印面を平らに⑥店先にある作業場

「手」食べていくために

平塚市の農家に生まれた小宮さんは、15歳の時に印章彫刻士の道に入りました。当時は、終戦から間もない就職難の時代。「手に職を就けないと食べていけない」と、平塚市にある老舗はんこ屋の門をたたき、定時制の学校に通いながら住み込みで修業を始めた。

配属されたのは、型にゴムを流し込

押し寄せる機械化の波

「手彫りの印章の需要は落ち込み、技術がすっかりと身に付くよう、時間をかけて育ててくれていたんだと思う。師匠と先輩には本当に感謝している」と振り返る。

12年にわたる修業を終え、小宮さんは厚木市の仲町(現在の幸町)に自身の店を構えた。店の名前は「見文堂」。文字が輝くようにと名付けた。店を出す時を同じくして、弘子さんと結婚。7年後に旭町へと移り、以来二人三脚で店を切り盛りしてきた。10年前には長男の邦照さんも一級印章彫刻技能士となり、共に店を支えている。

手彫りの未来

「お願していたはんこを取りに来ました」。ある日の夕方、閉店間際の見文堂に若い女性客が訪れた。「出来てますよ」。両手で品物を受け取ると、女性客は軽く会釈をし店を後にした。「今のお客さん、手彫りの店を選んでわざわざ遠くから来てくれたみたい。うれしいね。小宮さんは穏やかな笑みを浮かべ、女性の後ろ姿を見送った。

卓

卓上ライトに照らされた直径1センチほどの印面に視線を注ぎ、呼吸を止めて印刀の刃を当てる。刃先の太さが異なる6種類の印刀を手早く持ち替え、広い場所から順に彫り進めていく。店内には、印材を挟んだ「くさび」と呼ばれる木製の道具をカラカラと回す音と、時折「ふっ」と彫りくずを吹き払う音が響く。よどみのない作業が繰り返されると、印面には次第に味わいのある文字が浮かび上がる。彫り上げる文字は、小宮さん自身が筆で丹念に字入れたものの「プリントされた文字は、弱々しく感じられて好きになれない」と手書きにこだわる。

み文字をかたどる「鑄造ゴム印」を作る部署。最初に任されたのは仕上がった品物の配達や仕事の受注などの外回りだった。「思っていた仕事とは違ったけど、独り立ちした時にはこういう仕事も必要になる」と懸命に働き、少しずつ鑄造の技術を身に付けていった。

4年後、小宮さんは学校を卒業し正式に入社。はんこを彫る部署に移り、彫刻の技術を磨き始めた。当時、彫り方を教わる研修などはなく、師匠や先輩の仕事を見ながら黙々と働いた。師匠も先輩も、仕事のこつは決して教えてくれなかった。失敗をするたびに自分で改善点を考え、試行錯誤した。「技術がしっかりと身に付くよう、時間をかけて育ててくれていたんだと思う。師匠と先輩には本当に感謝している」と振り返る。

印章の製造は、昭和50年頃から機械化による大量生産が主流となってきた。安価な品が出回るようになると、多くの客は割高な手彫りの印章から離れた。いった小宮さんの店も例外ではなく、機械化のあおりを受け年々仕事は減っている。しかし、小宮さんは「手彫りの印章は、注文してくれたお客さんに向けて彫る唯一無二の品。値段ではなく、物の良さを分かってくれる人に届けたい」と、かたくなに自らの手で彫り続けている。

市斎場施設見学会

11月13日、①10時30分～②13時30分～。斎場（下古沢548）。施設の見学と葬儀の説明。「市民の葬儀プラン」の個別相談もできます。現地集合。各回50人。無料。11月1日～12日に斎場☎281局8595へ。申し込み順。

骨粗しょう症健診とミニ講座

12月3・5・7・9日、9時～16時（12時～13時を除く）のうち1時間程度。保健センターほか。骨密度測定とミニ講座。市内在住の30歳以上の女性で、現在骨粗しょう症の治療を受けていない方350人（8月に受診した方は除く）。800円（市民税非課税世帯に属する方や生活保護法による被保護世帯は免除）。☎ハガキに講座名、〒住所、氏名、生年月日、年齢、電話番号、希望日時を書き、11月18日（消印有効）までに〒243-0018中町1-4-3健康づくり課☎225局2201へ。抽選。

安心・安全なまちづくり研修会

11月20日、13時30分～15時30分。文化会館。「子どもの事故を科学的に予防する」がテーマの講演会など。無料。☎当日直接会場へ。☎くらし交通安全課☎225局2148。

年末調整などに関する説明会

11月13日、13時30分～16時。文化会館。年末調整の仕方、法定調書・給与支払報告書の作成など。事業所や事業主。無料。☎年末調整・法定調書＝厚木税務署☎221局3261。給与支払報告書＝市民税課☎225局2011。

無料調停相談会

11月16日、13時～16時。ヤングコミュニティセンター。民事・家事調停委員による借金や夫婦関係、相続などの相談。無料。市内在住在勤の方。☎当日直接会場へ。☎厚木民事調停協会☎221局2018。

司法書士による無料法律相談会

11月17日、11時～15時（荒天中止）。本厚木駅北口。司法書士に

よる相続、成年後見などの相談。☎当日直接会場へ。☎県司法書士会☎045・641局1372。

控除証明書の発行

1月1日～9月30日に保険料を納付された方には、11月中に日本年金機構から証明書を送ります。年末調整・確定申告まで大切に保管してください。10月1日～12月31日に、ことし初めて国民年金保険料を支払われた方には、来年2月に証明書を送付します。☎日本年金機構控除証明専用ダイヤル☎0570・070・117。

ひとり親家庭など医療費助成現況届

助成を受けている方は、11月29日までに現況届を提出してください。届け出には健康保険証などが必要です。児童扶養手当を受給している方は届け出の必要はありません。☎こども家庭課☎225局2241。

プレパパママ教室

12月1日、13時30分～15時。パートナーセンター。「妊娠中からの心の健康について」をテーマにした講座や妊婦体験など。市内在住の初めて母、父になる方25組（1人でも可）。無料。☎11月29日までに健康づくり課☎225局2201へ。申し込み順。☎130347

さよなら☆ヤンコミLIVE! inコスモシアター発表者募集

2月1日、18時30分～20時30分。子ども科学館。楽器演奏や歌唱などの発表（20分）。個人・団体（10人まで）の方6組（中学生以下は保護者同伴）。無料。☎ヤングコミュニティセンターにある申込書に必要事項を書き、11月30日までに直接またはファクスでヤングコミュニティセンター☎221局1110・☎224局9666へ。抽選。公募☎330018

ハートピア会員募集

ハートピアでは、市内の中小企業で働く勤労者のための福利厚生事業を実施しています。

あつぎ 元気Wave 11月の広報番組 **ガイド**

11月1日～15日 ◆伝統と誇りをつなぐ
伝統を受け継ごうと奮闘する相模里神楽垣澤社中に密着

放送時間(15分) ①12時～②19時30分～③22時45分～ ※内容は変更する場合があります。

番組はホームページ動画配信 CATV放送開始後に配信

《対象》常用従業員300人以下の中小企業。事業主・パートの方も可。市内在住の方は市外の中小企業勤務でも個人会員として加入できます《特典》各種慶弔給付金制度や福利厚生事業の利用など《会費》1人当たり月600円。☎ハートピア事務局☎228局8811。

市封筒の広告主を募集

■児童手当・児童扶養手当などの送付用封筒

《発送枚数》約3万6000通

■子どもの医療証の送付用封筒

《発送枚数》約3000通

いずれも募集期限は11月30日まで。詳細は市ホームページをご覧ください。☎こども家庭課☎225局2230。

市有地を売却します

①宮の里3丁目1155番146(214.24㎡) ②林4丁目597番2ほか1筆(141.08㎡) ③岡田1丁目1814番1(499.38㎡)。☎11月15日～29日に財産管理課☎225局2089へ。

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」

市では「心のふれあいと夢を育む青少年～家庭・学校・地域の連携で～」をテーマに、青少年の健全育成に取り組んでいます。☎青少年課☎225局2580。

11月は「児童虐待防止推進月間」

児童虐待を防ぐには、早期の発見と対応が重要です。虐待を発見した時は、こども家庭課子育て家庭相談担当☎225局2244または県厚木児童相談所☎224局1111（夜間、土・日曜、祝日は子ども・家庭110番☎0466・84局7000または、かながわ子ども虐待ナイトライン☎0466・83局5500）へ。

11月は「不法投棄撲滅強化月間」

「不法投棄をしない！させない！ゆるさない！」をスローガンに、投棄物の早期発見を心掛け、不法投棄撲滅にご協力ください。☎環境総務課☎225局2780。

アイドリングストップにご協力を

これからの時期は、1年の中でも自動車などから排出される窒素酸化物の濃度が高くなります。アイドリングストップにご協力ください。☎生活環境課☎225局2752。

みんなの声でつくるまち

《意見交換会》

●新型インフルエンザ等対策行動計画
11月14日、19時～20時。保健センター。☎当日直接会場へ。☎健康医療課☎225局2174。

《パブリックコメント》

◆社会教育委員条例の一部改正
《閲覧期間》11月1日～30日。☎〒243-8511社会教育課☎225局2513・☎223局0089・e-mail=8600@city.atsugi.kanagawa.jp
《閲覧場所》社会教育課窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、総合福祉センター、中央図書館、市ホームページ
《応募資格》市内在住在勤在学の個人・法人・団体
《応募》閲覧場所にある用紙を備え付けの「わたしの提案」箱に投函するか直接または郵送、ファクス、Eメールで問い合わせ先へ。

あつぎ健康相談ダイヤル24

健康相談・医療機関情報（救急含む）
さわやか1番 よいこころ
0120-31-4156
☎発信者番号は通知設定でおかけください

教育委員会人事

教育委員会委員長に新川勉さんを選出

市教育委員会は、10月1日付けで委員長に新川勉さん(54)を、委員長職務代理者に馬嶋順子さん(57)を選出しました。委員長の任期は、平成26年9月30日までです。委員の任期満了に伴い、議会の同意を得て10月16日付けで難波有三さん(59)が、引き続き教育委員会委員に任命されました。



新川勉さん
☎教育総務課☎225局2600



難波有三さん

インターネットモニターからの意見を紹介

ホットいいメール

Hot E Mail

10月1日号「広報あつぎ」を読んで

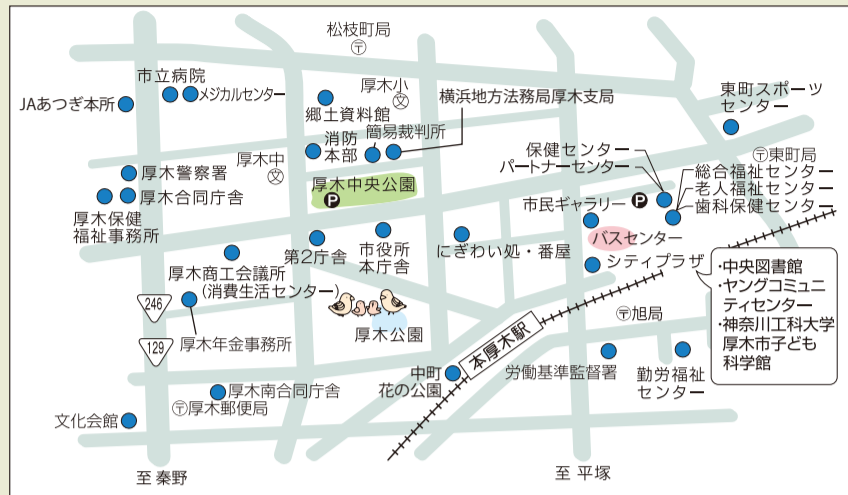
◆おいしそうな栗と子どもを見守るおじいさんの様子を見て、ほのほのした気持ちになった／50代女性・下荻野◆自治会でも会員の獲得に苦慮しているため、興味を持って読んだ／40代女性・恩名◆職員の数を減らすのも良いが、市民へのサービス低下が心配／70代男性・妻田北◆厚木は他の市町村に比べて、子育てに対する支援が厚く大変ありがたい／40代女性・妻田西◆どんなイベントが開催されるのか、いつも興味がある／70代女性◆市民芸術文化祭というイベントを知らなかった／20代女性・林

厚木市 インターネットモニター結果

編集後記

夏から垣澤社中の活動を追い掛けてきました。取材する中で社中の方々から気になる話を聞きました。「年々地域のお祭りが縮小している」。皆さんにも心当たりがあるのではないのでしょうか。さまざまな理由があるのですが、寂しい気持ちになります。伝統芸能も同じことなのだと思います。なくなってからその貴重さに気付いて、寂しい思いをするのは避けたいことです。担い手の頑張りだけでは、伝統はつないでいけません。私たち市民が地域の文化や伝統にしっかりと目を向けること、それが重要なのだと思いました。(清水)

タウンガイド



11月							12月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

マイタウンクラブ

印の番号でウェブ上からも、詳しい情報をご覧いただけます。「印」と記されたものは、ウェブ上から申し込みができます。

www.mytownclub.com
[携帯電話は末尾に/cpを]

スポーツなじみDAY

11月16日、10時～16時。荻野運動公園（中荻野1500）。気軽に楽しめるニュースポーツを紹介《種目》屋内＝バウンスボール、キンボール、ドッチビー、体力チェックコーナーなど。室内履きをお持ちください。屋外＝ターゲット・バードゴルフ、グラウンド・ゴルフなど（雨天時は屋内種目のみ）。
☎スポーツ課☎225局2531。

11月の青春劇場スケジュール

16日＝唄う！青春劇場カラオケ大会（ゲスト・宮川たかし）。17時～18時。定員100人。入場料1000円。
23日＝あつぎ青春劇場落語会（出演・柳家小太郎）。11時～12時30分。定員50人。入場料500円。
いずれも会場は、イオン厚木店8階。☎商業にぎわい課☎225局2840。

第38回厚木市青少年健全育成大会

11月23日、13時30分～16時。文化会館。青少年が健やかに成長できる地域づくりを考える。無料。

☎当日直接会場へ。☎青少年課☎225局2580。

市民医療フェスティバル

11月9日、13時～17時。レンブラントホテル厚木（中町2-13-1）。五輪メダリストの有森裕子さんの講演や医療ミニレクチャー、検査機器の体験など。無料。☎当日直接会場へ。☎厚木医師会☎222局1259。

カナガワ・デフ・ウェイ2013

11月10日、9時45分～16時10分。文化会館。聴覚障害者への理解を深める市民参加イベント。会費1500円。☎当日直接会場へ。☎県聴覚障害者協会☎0466・26局5467・☎0466・26局5454。

応急手当普通救命講習会

11月19日、13時30分～16時30分。消防本部。心肺蘇生法、大出血時の止血法、自動体外式除細動器（AED）の取り扱いなど。市内在住在勤在学中で中学生以上の方30人。無料。☎11月7日までに救急救命課

☎223局9365へ。抽選。☎120900

市民ふれあいマーケット

11月17日、10時～14時（雨天中止）。厚木中央公園。日用雑貨や衣料品などの不用品を130店舗が販売。古本市も同時開催。☎環境総務課☎225局2780。

こころのふれあいフェスタ依知南

11月16日、13時～16時。依知南公民館（下依知406-1）。精神疾患についての講演、当事者による体験発表。定員150人。無料。☎当日直接会場へ。☎ハートラインあゆみ☎259局5712。

バードウォッチング入門～荻野川に鳥を訪ねて～

11月24日、9時30分～12時（雨天中止）。荻野運動公園正門前集合。荻野川沿いでバードウォッチングを楽しむ。無料。☎当日直接会場へ。双眼鏡またはオペラグラスなどをお持ちください。☎郷土資料館☎225局2515。☎130462

すぐに役立つ運動あれこれゼミナール

11月28日、13時30分～15時。パートナーセンター。生活習慣病の予防に役立つ運動に関する講演会。市内在住の方100人。無料。☎11月21日までに健康づくり課☎225局2201へ。抽選（落選者のみ電話連絡）。☎130455

アクア転倒骨折予防教室

12月4日～3月5日の水曜（1月1・29日を除く。全12回）。10時～12時。レオスイミングスクール厚木校（田村町9-28）。市内在住で65歳以上の方20人（要支援・要介護認定者を除く）。無料。☎直接、電話またはハガキ、ファクスに教室名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、11月22日（必着）までに〒243-8511高齢福祉課☎225局2388・☎221局1640へ。抽選。☎130503

からだいきいき運動教室

①Aコース＝12月6日～2月28日の金曜（全12回）。13時～14時50分。東町スポーツセンター②Bコース

＝12月4日～2月26日の水曜（全12回）。10時～11時50分。ぼうさいの丘公園（温水783-1）③Cコース＝12月3日～3月4日の火曜（12月25日、1月15日は水曜。2月11日を除く全12回）。10時～11時50分。荻野運動公園④Dコース＝12月6日～2月26日の金曜（全12回）。10時～11時50分。東町スポーツセンター。

いずれも年末年始を除く。対象は、市内在住で65歳以上の方（要支援・要介護認定者を除く）。各コース30人。無料。☎直接、電話またはハガキ、ファクスに教室・コース名、〒住所、氏名、生年月日、電話番号を書き、11月14日（必着）までに〒243-8511高齢福祉課☎225局2388・☎221局1640へ。抽選（A～Cコースは初めての方を優先）。☎130490②130491③130492④130493

オストメイト社会適応訓練活動の相談会健康教室

11月17日、13時30分～16時30分。大野南公民館（相模原市）。皮膚・排せつケア認定看護師の講演や個別相談、補装具展示など。人工肛門・人工ぼうこう保有者とその家族や関係者50人。無料。☎当日直接会場へ。☎日本オストミー協会神奈川支部☎0466・45局4216。

スポーツ指導者セミナー

12月14日、14時～16時。荻野運動公園。WBC日本代表のコーチを務めた与田剛さんによる講演会。市内在住在勤在学中の中学生以上の方100人。無料。☎ハガキ、ファクス、Eメールに講座名、〒住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号を書き、11月25日（必着）までに〒243-0039温水西1-27-1体育協会☎247局7212・☎248局7151・e-mail＝info@atsugi-taikyo.or.jpへ。抽選。☎130561

ヘルスアップ相談

11月12・18・25・29日、9時～10時30分（25・29日は13時15分～14時45分）。保健センター。生活習慣病中心の栄養相談、運動相談。☎各前日までに健康づくり課☎225局2201へ。

「消すまでは 心の警報 ONのまま」 秋の火災予防運動

11月9日～15日

これからの時期は、空気が乾燥して火災が起きやすくなる季節です。命や財産を守るため、みんなで防火への意識を高めましょう。



調理中はコンロから目を離さないで

☎予防課☎223局9371

七沢 ふれあいデー



《日時》11月17日 10時～15時
《会場》七沢自然ふれあいセンター（七沢2440）
《内容》ミニバームクーヘンやせんみだこ作り、豚汁の無料配布など
《申し込み》当日直接会場へ
☎七沢自然ふれあいセンター☎248局3500

第4回 議会報告会

市民の皆さんと情報を共有し、開かれた議会を推進するため、厚木市議会主催の議会報告会を開催します。お気軽にご参加ください。

《日時・会場》

- ◆11月14日（2会場で同時開催）
 - ①19時～20時30分 小鮎公民館（飯山3526-2）
 - ②19時～20時30分 玉川公民館（七沢175-6）
- ◆11月16日
 - ①10時～11時30分 睦合西公民館（及川667）
 - ②19時～20時30分 荻野運動公園

《内容》平成24年度決算（9月定例会）の審議概要の報告や意見交換など

《申し込み》当日直接会場へ

☎議会総務課☎225局2701

11月9日(土)・10日(日)

本厚木駅周辺 10:30 START

にぎわい爆発!

パフォーマー
総勢40組以上

あつぎ国際大道芸

ことしも大道芸の季節がやってきました。厚木の街が劇場に変わる2日間。国内外から一流のパフォーマーが集結します。同時開催のイベントも盛りだくさん。あなたはどこから見て回りますか。



あつぎ国際大道芸
企画プロデューサー
橋本隆雄さん

大道芸は、観客とパフォーマーとのコミュニケーションが生み出す芸術です。そこには必ずしも言葉は必要ありません。一流のパフォーマンスを心で感じられる絶好の機会。ぜひ、感動を味わってください。

同時開催イベント

- あつぎグルメフェア
10時30分～18時 **I** 厚木公園
- まち元気物産フェア※技能祭も開催
10時30分～16時 **J** 厚木中央公園
- にぎわいキッズランド
10時30分～16時30分 **D** サンパーク
- 厚木商工会議所女性会バザー
10時30分～16時 **J** 厚木中央公園
厚木商工会議所 ☎221局2153

- あさひ公園まつり
10時～16時 **L** あさひ公園
厚木商工会議所 ☎221局2153
- 総合福祉センターフェスティバル
10時～16時 **E** 総合福祉センター
厚木福祉総務課 ☎225局2525
- パートナーフェスタ (8-9日)
9時～16時 **E** パートナーセンター
厚木人権男女参画課 ☎225局2500

- 消防団ふれあい広場 (10日)
10時30分～16時
市役所西側駐車場
消防団総務課 ☎223局9366



facebookもチェック! **あつぎ観光旅行社**
あつぎ国際大道芸
厚木商業にぎわい課 ☎225局2840

会場案内図

演技ポイント

- A 本厚木駅北口
- B 一番街①
- C 一番街②
- D サンパーク
- E 福祉センター
- F 中町公園
- G 花の公園
- H イトーヨーカドー前
- I 厚木公園
- J 厚木中央公園
- K ミツハシ紳士服駐車場
- L あさひ公園

インフォメーション
★あゆコロちゃんグッズ販売場所